

令和3年度お茶の水女子大学経営協議会〔第3回〕議事録

日 時：令和4年1月25日（火）15：00～17：10（Web開催）

出席者：（学外委員）五十嵐委員、今川委員、河村委員、久能委員、小坂委員、齋藤委員、佐藤委員、篠塚委員、杉村委員、藤崎委員

（学内委員）佐々木学長、森田理事、新井理事、石井理事、谷理事、坂元副学長、加藤副学長、太田副学長、山下副学長（事務総括）

（陪 席）内海監事、中野監事

小林（誠）副理事、曹副理事、谷本副理事

水野文教育学部長、小林（功）理学部長、仲西生活科学部長、

浅田大学院人間文化創成科学研究科長、飯田総合評価室長

I. 議事録（案）の確認

記録内容及び大学ホームページへの掲載について、了承した。

II. 学長報告

1. 新型コロナウイルス感染症への本学の対応について

佐々木学長より、新型コロナウイルス感染防止対策について、資料に基づき報告があり、森田理事よりPCR検査費の大学負担の取り組み等について、新井理事より授業実施方針等について補足説明があった。

2. 新学生宿舎の開寮について

佐々木学長より、本年2月にキャンパス敷地内に新しい学生宿舎「お茶の水女子大学音羽館」が竣工することの報告があり、新井理事より、3月9日に竣工記念式典を予定していることの内があった。

III. 審議事項

1. 令和4年度学内予算編成方針（案）について

森田理事より、令和4年度学内予算編成方針（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

佐藤委員より、収支状況が分かる資料を提示してほしいとの要請があった。また、学内のベンチャーキャピタルについて確認があり、森田理事より、現在、出資先となる大学発ベンチャーは存在せず、今後の育成が課題であるとの回答があった。

次に、篠塚委員より、将来的に運営費交付金に頼らない経営基盤を目指すにあたって、寄附金や外部資金に頼るのみでは厳しいのではないかとの見解が示され、方策を踏み込んで議論し、報告してほしいとの要請があった。

続いて、杉村委員より、国際的な展開について確認があり、森田理事より、SDGs及びジェンダー・イノベーションを核として展開していくことの説明があった。

2. 令和4年度資金運用計画書（案）について

森田理事より、令和4年度資金運用計画書（案）について、資料に基づき説明があった。佐藤委員より、基本ポートフォリオ策定の前提となる、資金運用リスクに対する基本方針について確認があり、佐々木学長より、基本方針を資料に加え、改めて審議いただくことの説明があった。

3. 新学生宿舎整備・運営事業の契約変更について

森田理事より、新学生宿舎整備・運営事業の契約変更について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

IV. 報告事項

1. 国立大学法人お茶の水女子大学役員給与規程の一部改正について

森田理事より、国立大学法人お茶の水女子大学役員給与規程の一部改正について、資料に基づき報告があった。また、関連して、前回開催の経営協議会で承認されたとおり、令和3年人事院勧告への対応として、令和3年12月賞与を引き下げるため職員給与規程の一部改正を予定していたが、政府の方針を踏まえ取りやめたこと、今後の政府の動向を見ながら必要に応じて職員給与規程の改正等を行うことの報告があった。

2. 令和4年度運営費交付金内示の概要について

森田理事より、令和4年度運営費交付金内示の概要について説明があった。

続いて、新井理事より、共通政策課題「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進事業」（特定分野校、ダイバーシティ推進校）に選定され予算が計上されたことの報告があった。篠塚委員より、選定委員会より、教材の開発・整備や他大学等や企業との連携に課題があることを指摘されたことに対する対応について確認があり、新井理事より、「本学で開発した教育プログラムの他大学への提供」及び「企業との連携」について実績を積み上げて行く計画であることの回答があった。次に、佐藤委員より、理系女性育成について、他大学と差別化される特色、方針を出してほしい、また、人文科学系と理系両方を使いこなせる「総合知」を持つ学生の育成が重要であるとの意見があった。これに対して新井理事より、新設予定の工学系学部において、人文科学系学生にもデータサイエンスを修得させる予定であるとの回答があり、また、森田理事より、新設予定の「総合知」に関する研究機構において、附属学校と連携して若年層からの理系女性育成に取り組んでいくことの回答があった。

次に、山下副学長（事務総括）より、施設整備補助事業について、文教育学部1号館改修工事に予算が計上されたことの報告があった。

3. 令和2事業年度決算剰余金の繰越承認について

森田理事より、令和2事業年度決算剰余金の繰越承認について、資料に基づき報告があった。

4. 令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

森田理事より、令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について、資料に基づき報告があり、全ての項目で「順調」の評価を受けたことの説明があった。

5. 令和3年度卒業生・修了者の進路状況について

新井理事より、令和3年度卒業生・修了者の進路状況について資料に基づき報告があった。河村委員より、学部卒業生と比較して大学院修了者の就職内定率が若干低い、大学院修了者は厳しい就職状況にあるのか確認があり、新井理事より、理系に対し文系大学院生の内定率がやや低いこと、また、大学院生に対するキャリア教育の必要性を認識していることの説明があった。

6. 国際化の状況について

石井理事より、本学の国際化の状況について資料に基づき報告があった。藤崎委員より、大学ランキングに捉われず、経営協議会における意見交換を足掛かりとして、大学の国際化の在り方を検討してはいかがかとの提案があった。また、杉村委員より、新型コロナウイルス感染症の影響により、留学の機会が制限される状況が今後も続くと思われるため、COIL(国際協働オンライン学習)の活用を一層推進する等の新しい戦略を立てる必要があるとの意見があった。続いて佐藤委員より、語学及び国際感覚を身に付けることが将来の職業で活かされるという認識を学生が持つために、卒業生のロールモデルを示すことが重要であるとの意見があり、石井理事より、グローバルリーダーシップ研究所において、国際的に活躍する卒業生をゲストに迎えたシンポジウム等を実施していることの回答があった。

7. その他

(1) 令和3年10月～12月における本学の主な活動について

加藤副学長より、令和3年10月～12月における本学の主な活動について、資料に基づき報告があった。

V. 意見交換

1. 大学間連携に関する意見交換(自由討議:参考まで記録)

本学と他大学・企業等との連携について、森田理事より資料に基づき説明があり、対話形式で意見交換を行った。

■学外委員からの主な意見等は以下のとおり。

五十嵐委員:内閣府の「国立大学イノベーション創出環境強化事業」に採択されたことで配分された予算で、どのような事業を行うのか、説明願いたい。

小坂委員:日本では投資家及び経営人材が少なく、また、大学等の研究機関から技術提供を受け、開発・生産を担う委託先、IPO市場等、スタートアップ企業を支える環境が未成熟であり、環境整備を目指すGTIE(Greater Tokyo Innovation Ecosystem)の取り組みは重要である。しかし、整備には時間を要するため、日本国内に拘らず米国でベンチャー企業を立ち上げることも選択肢としてほしい。

久能委員:データサイエンスやAIの次の技術として、ブロックチェーンが最重要になる。お茶の水女子大学でも新しい技術分野でのエンジニアを育成してほしい。また、女性が資金力を持ち、投資、サポートする側に回ることが重要である。さらに、欧米社会の考え方は「ダイバーシティ・インクルージョン」から「ダイバーシティ・エクイティ(公正性)&インクルー

ジョン」に変化している。そのことを認識してほしい。

今川委員：日本社会全体において、大学と企業の連携は活発とはいえない。そのような中で企業との連携を促進するには、お茶の水女子大学の特性・強みのある具体的な分野、目標を社会に発信し、企業が必要経費を含め、連携の姿を具体的に想定しやすくすることが重要である。

佐藤委員：大学でイノベーションを生み出すにあたって最も大きな課題は、プロジェクトリーダーを育成することであり、その役を担う研究者の処遇・人事評価等、労働環境を整備することが重要である。また、失敗したとしても単位として認定する等により、学生の起業を後押しし、教員、学生両方にイノベーションの気運を高めることで、お茶の水女子大学の存在感を増し、国際的な連携に繋げてほしい。

河村委員：大学間連携を安定的、継続的に推進していくためには、実務的な手続きを担う事務局、全体の管理調整を行うコーディネーターが重要である。また、事業を継続していくにあたって、費用対効果を見極める必要がある。さらに、他機関との連携を拡大するために、ジェンダー・イノベーション等、お茶の水女子大学として強み、個性を持つことが重要である。

篠塚委員：お茶の水女子大学の特性として、附属学校と連携し、小中高の段階から起業家精神を育成する教育プログラムに取り組んでほしい。また、文理の垣根を越えたトランスボーダー型研究者の育成も特色として進めてほしい。

■本学からの主な回答・発言は以下のとおり。

森田理事：イノベーション創出環境強化事業については、現在、準備段階として組織整備等を進めている。

新井理事：生活工学の教員が中心となって、新しい技術分野でのエンジニアを育成することを目標としたプログラムの作成に取り組んでいる。

佐々木学長：今回頂いた意見を基に学内で議論を深め、今後の経営協議会で改めて意見交換の機会を設けたい。

VI. その他

1. お茶の水女子大学及び「産官学グローバル連携による EDGE NEXT プログラム」主催

シンポジウム「女性の起業が社会を変える 全国的女子学生と女性社長とともに考える「女性の起業」」(Web) 開催のご案内

森田理事より、標記のシンポジウムについて資料に基づき説明があり、久能委員の登壇への謝辞と、各委員に対する参加依頼があった。

2. グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム「グローバル女性リーダーシップーアジアからの提言ー」(Web) 開催のご案内

石井理事より、標記のシンポジウムについて資料に基づき説明があり、各委員への案内があった。

3. 令和3年度卒業式・大学院学位記授与式及び令和4年度入学式について

佐々木学長より、令和3年度卒業式・大学院学位記授与式及び令和4年度入学式について、新型コロナウイルス感染拡大防止と安全確保のため、学生及び教職員のみで挙行することの連絡があった。

4. 佐々木学長より、令和3年度経営協議会開催予定について資料に基づき説明があり、次回開催は令和4年3月15日（火）15時であることを確認した。

以 上